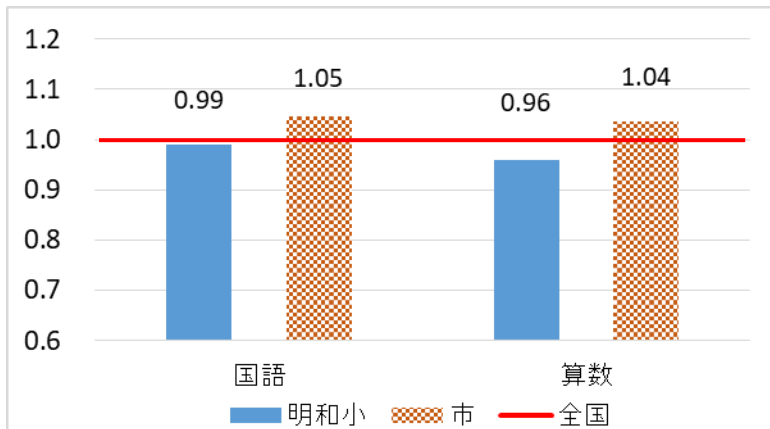


○調査結果（全国平均を1とした場合の平均正答率の比）



○調査結果についての分析、今後の改善方策

【国語】

文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する問題や、思考に関わる語句の使い方の理解とその活用に関する問題が全国平均正答率を上回っていたが、目的に応じて文章や図表から必要な情報を活用する力や文章要約などの力に課題が見られた。引き続き「自分の考えを自分の言葉や文字で表現できる」学習活動を推進する。

【算数】

三角形の面積の求め方や複合図形から平行四辺形の面積を求める問題など、学習指導要領の「図形」領域や「データの活用」について課題が見られた。基礎的な計算や速度や道のりに関する問題は、全国平均正答率を上回る結果となった。問題形式については、「記述式」の出題に対して課題が見られた。論理的な考えを言葉や文字に表現する学習活動を強化していく。

【質問紙調査】

「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」という質問に対して、肯定的な回答が低く、学習時間や読書時間も含め、時間の有効な使い方が課題である。「自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか」の質問に対して、肯定的な回答が高く、教科の授業や総合的な学習の時間で、自分の意見を発表する機会を大切にしてきた効果が出てきている。引き続き、一人一人の意見や気持ちを大切にする取組を推進していく。

○学力向上の取組

【中学校区】

以下の取組を通して、9年間の段差のない、絶え間のない学力向上を目指す。

- ・ディベート教育を通して、学力の礎となる考える力を育む。
- ・小中一貫推進委員会を概ね2ヶ月に1回、小中一貫学力部会を年5回程度行う。
- ・小中合同で研究授業や夏季研修会を行う。
- ・NET・英語科教員・英語教育推進委員の交流を進め、英語科及び国際コミュニケーション科の授業改善を進める。
- ・学力テストの結果分析を持ち寄り、共通の課題を見つけ、学力部会で改善策を検討する。
- ・小学校卒業時に、中学校入学時に回収する春季休業中の宿題を小中連携で作成する。

【学校】

- ・「ディベート教育」を通じて、論理的思考を含む「考える力」を育成する。また、寝屋川方式の学習法（ねやがわスタンダード）の充実により、学力・体力等を確実に身に付けさせる。
- ・国語科を中心に「自分の考えを自分の言葉や文字で表現できる」ための授業改善を推進する。
- ・算数科で、少人数授業、全学年デジタル教科書を活用した授業やICT機器を活用した指導などにより、少人数でより視覚的に捉えやすい授業を進める。
- ・全学年による「自主学习ノート」の取組、宿題のチェックや添削指導を進め、家庭における学習時間を確保すると共に、より一層充実した内容のものにしていく。